



齋藤 博さん

(金足小泉字瀧向・68歳)

昭和25年歌誌「寒流」に入会、平成5年からは同誌の編集発行人をつとめる一方、「さきがけ歌壇」の選者、「あきた文化デザイン会議」の講師など、秋田を代表する歌人として活躍しています。また、秋田市歌人協会、秋田県歌人懇話会会長として、全県的に短歌の振興に貢献しました。

ひまわり

「秋田の人がつくる歌は、秋田の風土を表現した作品が多いのが特徴。豊かな自然の中で暮らす人間の心の動きがうまく歌に詠まれています。今後の課題は若い人にも関心を持ってもらうこと。若いエネルギーを歌にしたためてほしいものです」



田口昌樹さん

(新屋町字関町後・64歳)

江戸時代の紀行家・菅江真澄の研究者として活躍しています。秋田を深く愛した真澄の著作や旅の足跡について、長年調査・研究し、多くの著作、論文を発表しました。

ひまわり

「博物学者や医者、様々な顔を持つ真澄の人間像に興味はつきません。真澄は東北を旅しながら、厳しい環境で助け合って生活する人々を、本当の人間の姿であると考えていたようです。真澄ほど秋田を歩き、庶民の生活を書き残した人物はいません。その人生を解き明かし、わかりやすくみなさんに伝えていけたらと考えています」



文化功績章



大井錦亭さん(大井武司)

(東京都三鷹市・73歳)

秋田市土崎港出身。書道界の最高賞といわれる毎日書道展文部大臣賞や、日本美術展覧会特選など輝かしい受賞歴を持ち、昭和・平成を代表する書家として国際的に活躍しています。

また、秋田でも書道の講習会を開き、市の書道関係者と交流を深めているほか、千秋美術館、土崎図書館、土崎支所に多くの作品を寄贈しました。

秋田に対する強い郷土愛で幅広い支援を重ね、市の文化発展に貢献されました。